

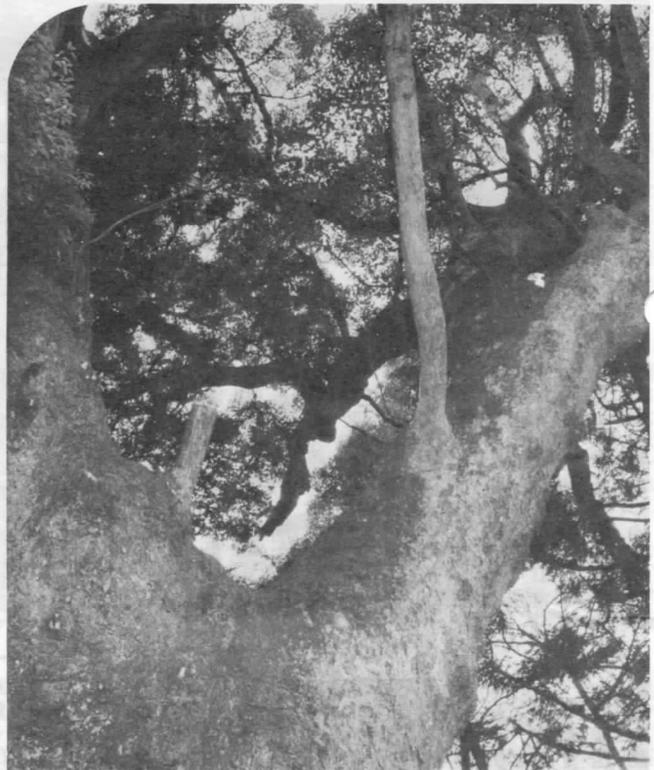


地区広報

おやまただ

第8号

63. 3. 25



わが町の天然記念物(市指定)

おおくす

空を覆う大樟

堂ヶ山岬神明社境内には、昼なお薄暗く感じ空を覆うがごとくそびえている大樟があります。

樹齢は八百年と推定され、樹勢は今なお盛んで樹の高さは約四一呎、幹の周りは約十二呎という巨木。神明社を訪れた人は必ず見上げる大木。

この木は市内第一の大樟で、県下にも比類のないもので昭和三十四年市指定の天然記念物となっている。

くわしくは八頁に

おもな内容

- ②南部工業団地の造成
- ③完成間近いゴルフ場
- ④直筆の野袈裟伝わる
- ⑤文芸欄
- ⑥こわい枯草焼き
- ⑦心と体の健康体操
- ⑧この人尋ねて

南部工業団地 太陽化学が 新製品工場を Aゾーン区画に進出決まる

Aゾーン区画に進出決まる

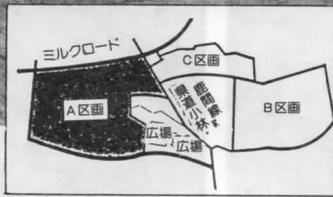
内陸部への新しい工業団地開発として脚光を浴びてきた南部工業団地の開発が、いよいよ始まった。

同団地は、小山田・内部の両地区にまたがる地域で三つの区画からなり、そのうちA区画分の約十三万平方メートルの用地造成工事が、昨秋頃より大型の近代重機によって進め

られている。このA区画には、すでに食品素材の総合メーカーである太陽化学(株)の進出が決まっている。同社はここに新工場を建て、最新の技術を使って世界でも例のない新製品を製造されるという。ちょうど工場周辺が茶の主要産地でもあり、地元



造成が進む南部工業団地のA区画



の関心も一段と大きい。最近の社会経済情勢も大きく変わり、地域の状況も変容してきたが、他の地区と比較すると都市化・工業化が遅れ農村的色彩が強く活気に欠けていると云われていただけに静かな内陸部にこだまする音が、明日の小山田に活気づけるかのように感じ、地域の発展に結びつけてほしいものです。

四日市市の西南部に位置するわが小山田地区に、このたび工業団地として開発され、すでにその造成工事が現在進められています。

かねてより地域開発のための工業団地の導入を図ることは、調和のとれた地域の発展と、地域住民の生活安定に役立つものと信じ、当局に再三陳情や要望をしまっていました。

それが昭和五十八年八月頃だったように記憶していますが、市当局より工業団地の計画案が提示されました。

以前から山田が要望してまいりました住宅団地との関係、公害問題などについて検討し

坂を上がれば今までにない新天地。

ミルクロードには、いろいろな車が西へ東へと忙しそうに行き交わっている。

東方を見ればガソリンスタンド、西に目を移せば小山田病院の近代的な建物や喫茶店その上、南部工業団地の開発によって静かであった谷底にも、いままで見たことのない巨大な近代重機がうなりをたてての作業で、どんどん造成作業が進められています。

下水道管の配管工事にも、大きな仕掛けにただ目を見張り驚くばかり。

た結果これに取り組むことに決定し、小山田地区開発推進協議会」が発足しました。

この協議会の構成については、山田・鹿間・六名の各自治会長が柱となり、山田町の

苦難の道 四カ年 造成までを回想して

小山田地区開発推進協議会会長 伊藤 群

会長ゆえに協議会長に推せんされお引受けする結果となりました。

委員として地権者から選ばれ以後四カ年、ほとんど夜間の個別訪問などに奮起し続け



大型機によって進められる造成工事

変して活気にあふれていく様子に、いろいろな難問を乗り越えてここまで発展してきただけに感無量である。

小さな背中に毎日ランドセルを背負って通学する子どもたちの脳裏には、どんなに大きな希望と想像を描かれていることでしょうか。

これからは自己本位や昔気質を捨て、もつと将来像と大きな目でみつめ、たとえ小さな力でも協力したい気持がみなぎってきます。地域の活性化のために

昔気質を捨て協力を 南部開発に想う

六名町 一人 老人

昨年までの荒れ果てた畑、手入れのしていない山林、痴漢の出そうな風景だったのが一

たが一〇〇%の同意が絶対条件なるが故に、難問・苦問が山積し遅々として年月の経過をみました。

このようなことから、協議会の中でもその取り組み方に

もちろん山田は山田として懸命の努力が続けられたことは言うまでもありません。こうした現実も悪条件下、地域の発展という希望と、開発公社職員の熱意に支えられた結果、今日の姿を眺めたとさひとしお感謝の気持で一杯です。

すでにAゾーンについての進出企業も決まり、来秋頃操業の見通しなど明るい目先に、まだまだ問題は残るが協議会の役員・委員さん、それに地区のみなさんからいただいたご協力に対し厚くお礼申し上げます。回想と経過の一端を記しました。

完成間近いゴルフ場

—生まれ変わる内山町—

内山町 矢田 哲

移り変わる内山町として過去二回にわたり、この地区広報でゴルフ場の進出造成にもなう内山町住民の姿や、周辺の造成工事などについてご紹介しました。

いよいよこの秋オープンを目指し、関連施設など大詰めの整備が進められ百万平方坪(32万坪)を越す拡大な地

形や、その景観は大きく変わろうとしています。現在の進捗状況をちょっと見ますと、

荒造形工事はほぼ完了し、計画にもとづく美観上のマウンド・池・バンカーなどの造形整備に入っています。また芝張りも半分以上終わり、五月末までには完了の予定。六月末までにコース内の道路整備をして一応造成工事は終了。また現在建設中のクラブハウスも七月末に完成予定。



ゴルフ場に囲まれた内山町の集落

通称大亀谷地区には、北側の山と南側の山から天白川をひとまたぎする全長一〇五メートルの大橋で結ぶ橋脚工事も進められ一方、西の方では小山地区との境に六分のトンネル(カルバート工事)が出来ます。このように拡大な地形を変える大工事だけに、大雨などを非常に心配していたが幸い台風もなく難しい地盤の山々も、業者の完璧な工事により立派なゴルフ場として変身するの目前です。まさに田舎

娘から超一流の貴婦人に生まれ変わろうとしています。

アンテナが消え

温泉のある町に

また地元への工事として、テレビの共同受信施設の工事も進められ、地元側に引き渡されるのでやがて内山町の民家の屋根上からテレビアンテナの消える日も遠くないことと思えます。

温泉の採掘も見事成功し、四八度Cのお湯が出て近く自治会の用地に導湯され、娯楽室付きの温泉場が出来、地区のみなさんの憩の場として楽しく利用していただけます。夢のような話だったゴルフ場も、内外の情勢も有利に働き、地元と約束したことは必ず実行しますとのゴルフ場の誠意と、すぐれた鹿島建設の技術と寛容な地区民との調和のためものとしてよろこんでいます。

内山町のような山間地での農業は今後やりにくくなるので、町民の選択が賢明であったか否かは今後に残る課題となるでしょう。

キャディーや

従業員を募る

地元雇用、地元優先を願って現在キャディーを始め従業員などを募っています。地元で働きたい方は自治会等へご相談してください。

内山町が誕生して二百五十



南・北の山を結ぶ大橋の橋脚工事

年。いち早く牛乳の直販を始め、働きものだった先人の方々も今日の変わりように驚いていることでしょう。山も、川も、野生動物の宝庫だった内山村。景観の違った中で、どうか少しでも昔に



美しいマウンドが水面に映るゴルフ場

近い自然に一日も早く戻る日を切望し、環境は変わっても地区民一同協力し合って住みよい町づくりに励みたいと思っています。

いつの間にやら私も年長者の部に属するようになり、改めて歳月の過ぎ去る早さに驚いています。内山町の進路を

あやまらずに若い世代へ引き継ぎたいと思います。進出された企業がよい会社ばかりで、順調に明日の内山へ向って進んでいます。これもひとえに地域のみなさん方のご協力の賜と感謝しています。今後共一層のご支援とご協力を切に願います。

真慧上人直筆の「野袈裟(のげさ)」 五〇〇年の歴史を秘めて今に伝わる

六名町 田中弘治郎

六名町光輪寺には、五百年近くわたる歴史を秘めた真慧上人ご染筆のご下賜品が、掛軸にして寺宝として保存されています。

このご下賜品は、同寺秘蔵の古文書によると、

真宗高田派第十世真慧上人が二十六歳のとき、諸国教化を発願され、当時本山のあった下野の国(現在の栃木県芳賀郡)を出て、越後の国(新潟県)から北陸を行脚し、寛正一年(一、四六〇年)伊勢の国(三重県)に移られ教化にあたられました。

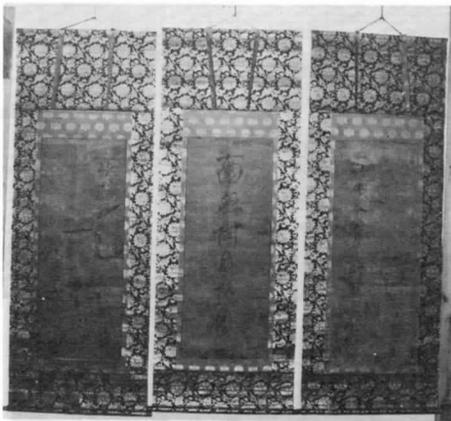
寛正二年(一、四六一)年)内部北小松の中山というところに中山寺を創建され、ここ

に三年余り滞在されました。この寺には阿弥陀堂をはじめ真宗の本山としての伽藍が整い立派なお寺でした。

ご滞在中村(現在の六名町)・堂ヶ山・水沢・西庄内へと、また南は石薬師・津賀・庄野・龜山など近郷にわたり広く教えを広められました。

この教化の様子を、当時「道俗男女が草の風になびき、郡鳥の林に集うが如くであった」と伝えられています。

こうして中村(六名町)の住民も弥陀佛のみ教えを熱心に聴聞し、信心を深め報恩謝徳の念佛の聲は里中に響きわたる毎日でした。ご化導の日には近隣近在の善男善女が道



野袈裟の掛軸

上人とお別れする時が来ました。そのと

き世話方の一人が浄土にかえるとき、棺上を覆う「野袈裟」のご染筆ご下賜をお願いしま



由来が記されている古文書

したところ心よくお引受けいただき、同行一同は大へんありがたく涙を流してよろこび合いました。

そして寛正五年(一、四六四年)、一身田に無量寺を建てられ、定頭上人の没後これを高田本山専修寺とし、以後本山の阿弥陀堂建立の大事業や各地へのご巡錫に多忙な毎日

を過ごされました。いつしか四十年の歳月が過ぎ、文龜二年(一、五〇二年)八月二十二日付で、

「其佛本願力聞名欲往生皆悉到彼国自致不退転」持主中村衆積真慧法中印書

とご染筆あざやかに、とても立派な「野袈裟」が下賜され同行一同は夢ではないかと驚き、歓喜の称名念佛は道場内にこだましました。

このように二道場同行の依頼を四十年余りも心にかけていただいたご上人のありがた

いご厚志に、一層の信心堅固

医療制度が充実し、ますます高齢化が進む中で老人の出来る運動はゲートボールであります。

「ゲートボール」と云うといかにも外国から来たスポーツのように感じられますが、これこそ日本で発明され普及された純国産品です。

このゲートボールは、スポーツとして文部省や教育委員会が推せんしているもので、近い将来には国体の一部にも競技としてとり入れられるように聞いています。

医療の上でも、ゲートボールは足腰を強くする運動と医師が進めています。

のどかで飽きないスポーツ 健康と親睦にゲートボールを

老人クラブ 矢田 光雄

で暖を取り、休息の時間には昔話や世間話に花を咲かせ曲った腰を伸ばし、足の痛いのも忘れさせる程楽しいスポーツです。

夏は涼しい時間を利用し、冬は廃材

青空のもとで多くの仲間と一緒に和気あいあいに、

夜の解消になり、夜も十分に睡眠がとれ気持よく朝を迎えることが出来ます。



ゲートボールを楽しむ老人たち(小山町で)

の気持ちと、その保存に努力し後世に伝えんことを改めて誓い合いました。

この「野袈裟」は後に立派に掛軸表装され、現在光輪寺の寺宝として秘蔵されており古文書を拝見してその内容が判りましたので紹介させていただきます。

現在小山田地区では鹿間、堂ヶ山、山田、小山の各町に立派なコートがあり、それぞれ毎日か週何回と日程を決めまして競技をしています。

また毎月一回各町持ち回りで順番で親善月例会を開催し各町の方々との親睦交流試合をしたり、冬を除く四月より十二月頃まで市内三滝公園や緑地公園で行う市の大会にも出場しています。

何百人もの選手が一堂に集まり、色とりどりの服装でゲームを進行している姿を見ると、何と頼もしく見え老人とは思えません。

各町のみなさん、一度お近くのコートへお出掛けください。一人一人の健康保持と豊かで自由な老後生活の育成助長、それに老人相互の親睦を図るためにも、みなさん方のお越しをお待ちしております。

明るい家庭づくり

標語

近く家庭に配付
小山田地区青少協

小山田地区青少年健全育成推進協議会では、さきに本年度の事業活動の一環として地区のみなさんから明るい家庭づくりになんだ標語を募集品が選ばれました。

朝の挨拶笑顔でかわす
明るい家庭は躰から

伸びる芽に

みんなで向けよう愛の鞭

親と子の
心が通う明るい家庭

文芸らん

短歌

山田町 矢田敦子
古事記にし 名は伝へ聞く

鈴鹿山
四季眺むれば心安らぐ

空透きて 木曾御獄の見ゆる
とふ
向山辺に夜明け来初めし

ミルク路の 移ろふ様を見る
毎に
遠き祖の血と汗を思ひぬ

川柳

山田町 矢田まさ子
我が町の灯が温かい旅帰り

また、この三点については標語印刷し、近くみなさんの家庭に配付します。
なお、入選者は
鹿間町 酒井三春さん
堂ヶ山町 古川千鶴さん
山田町 矢田信夫さん
のみなさんでした。

山田町 矢田春美
紅白に包んで贈る愛と見栄

しきたりが肩に重たい祝いの日
しきたりを捨てた気楽と淋しさ

もうすぐお雛祭り、どこの家でも立派なお雛様が飾ってありますが、二、三回飾るともう面倒になるとか。勿体無いと思うのは、老婆心でしょうか。

青春を耐え抜き今の老婆心

俳句

小山田軽費老人ホーム

俳句同好会
松すぎて老一人なり常の部屋

高橋
落葉鳴る無人の駅の片隅で

河内
まだ生きて在る証かや年賀状

むらせ
あなた、かき七草粥に感謝して
松岡

着ぶくれて装ふことのなき我
に
しほ
初日の出ホームの空に手を合わせ
ふき
初詣月天心に戴きて
麦笑

詩

ふくらむ

小山田の地図

山田町 矢田まさ子

小山田の地図ふくらんで
風に乗って春がくる

小鳥も花もうたいます発展の町小山田を

優しい忘れぬこの町を
春が一番知ってます

春が蒔く幸せの花の種

町いっぱい咲くでしょう
春が夢見て帰ります幸せ祈り
帰ります

小山田の地図ふくらんで
風に乗って夏がくる

太陽「さらさら」うたいます
発展の町小山田を

笑顔忘れぬこの町を
夏が一番知ってます

夏が蒔く幸せの花の種

町いっぱい咲くでしょう
夏が夢見て帰ります活躍祈り
帰ります

小山田の地図ふくらんで
風に乗って秋がくる

山の紅葉うたいます発展の町小山田を
会釈忘れぬこの町を
秋が一番知ってます
秋が蒔く幸せの花の種
町いっぱい咲くでしょう
秋が夢見て帰ります平和を祈り帰ります

小山田の地図ふくらんで
風に乗って冬がくる

雪が「ちらちら」うたいます
発展の町小山田を

人情豊かなこの町を
冬が一番知ってます

冬が蒔く幸せの花の種

町いっぱい咲くでしょう
冬が夢見て帰ります発展祈り
帰ります



しめじの自家栽培講習



ちぎり絵教室



防災訓練



牛乳パックからの
手すき和紙づくり



陶芸教室



地区文化祭

小学生の「火災予防コンクール」 毎年地区文化祭の時期に開催 —— 子供会からの報告 ——

夜中にサイレンの音を聞く
と、思わず背筋に冷いものが
走ります。ましてや、旅先で
それに出くわすと、「わが家は
大丈夫かなあ」と心配になり、
旅の楽しさも半減してしま
います。

それと同時に、消火にたず
さわみなさんのご苦労は、
並大抵のものではないと思
います。

ます。

火事や、交通事故のおそろ
しきは、体験したものでない
と、わからないと言われます。
しかし、体験してからでは
おそいことは、言を待たない
でしょう。

地区子供会育成者連絡協
議では、消防署や自治会、小
学校、PTA、市民センター



地区文化祭に展示された防火ポスター(小学校体育館で)

文化祭の前夜に、小学校の
体育館をお借りして、学年別
に展示します。

文化祭当日の朝、ご後援を
いただいた各界の皆さんのお
手数をわずらわして、審査を
し、入選十三点、佳作十二点
を決めます。子供たちは、工
夫をこらし、一生懸命画いて
いますので、選にもれた作品
の中にも、優秀なものが沢山
あります。審査に当たってい
だいたみなさんも、私たち育
成会の役員も、「あれもよかつ
た、これもよかつた」と後髪
を引かれる思いで、会場を後
にし、午後の表彰式に臨みま
す。

作品は、二日間にわたって
会場に展示されます。ちよう
どこの日、同じ会場で、PT

のご後援を得て、毎年十一月
に開催される地区文化祭に呼
応して、小学生の「火災予防
ポスターコンクール」を開催
しています。小山田小学校に
お願いして、十月下旬に子供
たちに画用紙を配ってもらい、
十一月月上旬に、子供たちが画
いたポスターを集めてもらい
ます。

ウーウーとけ
たたましく鳴ら
して走る消防
車。一瞬びくっ
として何だろう
?どこだろう?
?どこだろう?
?どこだろう?

たたましく鳴ら
して走る消防
車。一瞬びくっ
として何だろう
?どこだろう?
?どこだろう?
?どこだろう?

火魔の怖いことは誰でも知っ
ている。だがちよつとの油断
や心の隙で取りかえしのつか
ない結果になる。
火災は建物だけに限らない。
いつ、どこで、何が起るか
分からない。たばこの投げ捨
て、子どもの火あそび、たき
火の不始末、あぜ草焼きなど
の大丈夫だろうの心の油断か
ら枯草火災になる例が毎年多
く発生しています。



あぜ焼きからアッ!という間にこの通り(山田地区内)

小山田地区だけでも、ここ
一年間で建物、荒地、大事に
いたらなかったものの子ども
の火遊び、たばこの不始末な
どでの事故が発生しています。
これから春にかけての季節
は特に空気が乾燥し、ちよつ
との不注意により火災が発生
しやすい時期です。
風の強さ、周囲の状況等を

こわい枯草焼き
防止には細心の注意を
—— 南消防署より ——

考えていた
だき、あわ
せて消化の
準備を万全
にし、火災
防止に細心
の注意をは
らっていた
だくようお
願いしま
す。



タバコの投げ捨てによる枯草火災

A主催のバザーが開かれます
ので、たくさんのおみなさんに
見ていただいています。
体験してからはおそい、
発生してしまつてからは困
る「火事」を、未然に防ぐた
めに、みなさんの「火災予防

この次は、もつと多くの作品
が出されるように、そして、
もつとたくさんのおみなさんに
見ていただきたいと願って
います。



それぞれの持場で生かせ火の用心

心と体のバランスを 健康体操とともに

健康体操委員 長田 豊子



毎月二回金曜日の夜ともな

ると、夕食を終えた主婦が市民センターの灯を求めて三三五五集まって来る。やがて館内は笑声や話し声、それにカセットの声も加わってにぎやかなひとときが始まる。これは雨の日も風の日もつづいて

います。

婦人会活動の一環として忙しく立ち働く小山田婦人のために、集いと健康への手助けをとお願いのもとに、健康体操が小山田で始まって一年余り。

もう少しスマートになれる

かしら！。

肩こりや腰痛がとれるようになるかしら！。

仕事とは違って筋肉を使つて、運動不足を解消しましょう！。

とそれぞれ目的は個々に違つてはいますが、ストレッチ体操に取りこんでいます。

「ストレッチ」とは、伸ばすとか、引っぱるとかいう意味で、私たちの体を支えている筋肉や腱を意識的に伸ばすために工夫された体操で、最近健康の調整法として広く普及されています。

ストレッチ体操で体を動かす、普段使わない筋肉を曲げ伸ばしすることによって、眠っていた筋肉を呼びおこすようです。また意外と自分では自覚しない体のこりに気づいたりもします。

我慢して引っぱったり、伸ばしたりしたあとの爽快感たるや、これはやはりやってみる者にしかわからない心地良さがあります。何とも妙に体が軽くなるのですから。

また同じサークルに集う者同士、わずかな空き時間に情報交換もでき、今まで見知ら



地区運動会で日頃の成果を発表する会員たち

ぬ人との出会いと会話、人と人とのつながり、共通のものにどうぞ者同士の親睦ができることも一つの良さでしょう。健康体操というのは、フォークダンスあり、社交ダンスあり、またいろいろな体操ありと、健康に関するものを全てを、おもしろおかしく教えていただき、それをみんな楽しんで愉快に行うことだと私は解釈しています。

結果として恥ずかしながらも昨年は、地区運動会にも参加させて頂きました。体重が二、三kg落ちた人もいます。体が締まった方もみえます。とにかく健康へのステップを駆け上っているのだと思います。

日を重ねるたびに、だんだんと衰えていく体と頭脳の働きに歯止めをかけ、いま一度十代に戻らぬまでも、二十代くらいの若さに戻って記憶力を取り戻しながら、自然に余

分な脂肪を取り、それによつてこりや痛みをなくして、疲れをいやし健康体へと近づいて行くのだと思います。大きな声を出してみんなの中で笑いこぼれることも、心の健康に役立っているのだとも思います。

のだと痛感しています。この一年婦人会の健康体操委員としてメンバーと一緒に頑張ってきて、やたらストレッチのたまる今の世に「健康とは」心と体のバランスであり、仲間たちと笑いながら健康体操に興じること。そのこそ健康を保つ秘訣なのだ、一年間この体操に携わってみて私なりにそう確信するようになりました。

鹿間町構造改善センター完成

長い間の念願実る……

鹿間町自治会

鹿間町の海善寺北隣りに、このほど「鹿間町構造改善センター」が完成しました。

鉄骨造瓦葺平屋建二百八・六八（約六十三・一二坪）

工費は国庫補助を受け、地元負担金を含め二千五百万円

鹿間町は二百三十戸、九百十二人。この施設の完成で町民の長い間の念願とみんなの協力の結果と喜びは大きい。



竣工間近い構造改善センター

鹿間町には農家組合を中心とした各種団体が多く、研究会や会議などを開く場所がなく、不自由していました。このセンターによって農地の流動化など農業の振興と農家生活の改善、地域社会の活動がますます活発になり、農業経営のあり方などを学び、広く活用されるものと期待されています。

大 樟
神木として崇拝
神明社

堂ヶ山町神明社の大樟（一面および下の写真）は、古い記録によると堂ヶ山町の町並みが出る以前からこの地に

ある日、電車の中で一人のおじいさんが一枚の紙で巧みに折り紙を折っていた。やがて出来上がったものをすぐ側で見ていた見知らぬ子どもさ

この人尋ねと
③

折り紙には夢がある
折り続けて60余年
山田町 西 米蔵さん

んに差し上げていた。もちろん子どもはその出来ばえと、もらったうれしきで大喜び。おじいさんにもっこり……。こうして機会があれば趣味の折り紙を折っては人にあげているおじいさん。
この人は、現在小山田軽費老人ホームに入居している西米蔵さん（七三）。



折り紙を折る西 米蔵さん

た頃に自然発生育したものであろう。その後徳川中期（三〇〇年前）に伊勢神宮の分霊神と

西さんは農家の四男坊として生まれ、小さい時に母親に先立たれ父親によって育てられた。当時は現在と違って何一つ遊び道具もなく、すべて手づくりを父親から教わった。折り紙も手近かにある紙を使っていろいろの折り方を教えてもらった。

折る紙には夢がある。それは平面的なものから立体的なものへの変化、また無限の世界がある。こうした魅力にひ

かかれて以来折り紙が遊び道具であり、遊び友達でもあり少年時代を過ごした。かつて戦時中、中支方面にいたとき軍隊生活の余暇をみては、子どもの頃よく折った紙飛行機を折っては遊びに来る子どもたちに与え、与えては作ったものだ。

いつしか「フエイチーシーサン」（飛機の先生）と中国の子どもたちからの人気ものになり、大変歓迎されたこともあった。

現在日本折紙協会の講師でもあり、県下でも数少ない内の一人でもある。主に伝承折り紙を得意としているがその数も二〇〇位かな……と謙遜気味。

書・墨絵・俳句・囲碁など趣味も多く、こうした趣味を生かしてより多くの人と接し、また子どもたちのよろこぶ折り紙をつづけたいと云う西さんの表情には、折り紙が生きる楽しみを支えているかのようである。

現在もこの大樟はよく茂り樹勢は盛んであり、根廻りは約二十、地上〇

五層のところの周囲は約十二層、地上五層の高い所から幹が南北に二分している。樹高は約四十二層で樹冠は東西約三十七層もある。

地区の人口5,751人

(63年1月1日現在)

町 別	世帯数	人 口		計
		男	女	
山 田 町 (含老人ホーム)	843	922	1,144	2,066
西 山 町	156	299	326	625
小 山 町	144	301	314	615
内 山 町	54	105	121	226
六 名 町	45	98	104	202
堂ヶ山町	102	240	249	489
美 里 町	37	97	85	182
鹿 間 町	230	444	468	912
和無田町	99	210	224	434
計	1,710	2,716	3,035	5,751

して神明社を創設し、爾来遠くからも見え、人びとから神木として崇拝された。



天然記念物の大樟

元来樟は九州や四国及び本土、中部以西に自生しており、暖地照葉樹で巨樹が多く、よく神社の神域などにおい茂っているが、この木は四日市市

第一の大樟で県下にも比類のないもので、昭和三十四年三月二十五日四日市市指定の天然記念物となっている。

もちろん山田は山田としてや々と出来上がった地区広報「第八号」をお届けします。この広報が皆さんのお手元に届く頃には、花の便りを目と耳で楽しんでおられることでしょう。
◎つい近年まで比較的静かだった小山田にも時代の波に乗って大きく変わろうとしていきます。五年先、十年先の姿はたして想像できるだろうか。
◎お忙しいなかご寄稿いただきました方々に厚くお礼申し上げます。皆さんのご意見や話題が地域の発展への活力になることを願ってやみません。